
東方「無貌の男が幻想入り」

藤村紫炎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方「無貌の男が幻想入り」

【Nコード】

N4702K

【作者名】

藤村紫炎

【あらすじ】

いきなり幻想郷にいた穂波。彼は元の世界に忘れられた！？何がおこるか作者にもわからないプロット無しに行き当たりばったり小説。不定期掲載でがんばります！

第1話（前書き）

処女作？となっております。

去年投稿したものとほぼ同じ内容となっております。

主人公の喋り方が不安定です。

第1話

やあ、俺は穂波。

京都で面の彫り師を生業にしている少々オタクな20歳だ。さて、いきなりだけど皆に質問だ！

ここどこ？

東方『無貌の男が幻想入り』第1話

【いつの間にやら幻想入り〜誰か説明して〜】

俺は気がついたら神社に立ってた。俺の後ろには鳥居があるけど…俺、石段のぼった記憶ないぞ？

まあ、この神社きれいだし誰かいるだろ

「すみませーん！どなたかいらっしやいますかー？」

誰かいたら此処がどこか尋ねようくらいにしか考えてなかった。…この人に会うまでは

「あら やつときたわね？幻想郷へようこそ、穂波くん」

少女臭がそこにいた。

え！？何！？八雲紫！？ってことはここは幻想郷！！

…まてまて（- -）…夢とか幻覚とかってオチだろどうせ。俺はだまされないぞ！」

「夢でも幻覚でもないし、ましてや騙してもないわよ〜」

「ってなんで考えてる事が!？」

「声に出てたわ」

「さいですか:orz」

「うるさいわね!人ん家でなに騒いでるの!？」

騒いでたせいか、巫女さんが怒りながらでてきた。

…うわ…本物の霊夢さんだ…あ、ホントに腋だ(笑)

「あ、こんにちは」

「ああ霊夢、お客さんよ 外来人 今来たところ」

ピタッ!

あ、霊夢さん止まった。震えてるけどどうしたんだろっ?…って全力ダッシュでこっちに来る…え?

「とつととおおおお…」

あ、跳んだ

「帰れ!」

どげしいいっ!!

霊夢さんの蹴りが炸裂!

穂波は150のダメージを受けた

「がぐげふうっ!？」

穂波は吹っ飛んだ

びたーん!!

「ぶべ!?!」

ずりずり…

穂波は何かの壁にぶつかった。

穂波は80のダメージを受けた。

穂波は気絶した。

「い…う?あたた…」

体中痛い…ってここは?

「目が覚めた?」

声の方を向くと霊夢さんが正座しながらお茶をのんでいた。

「どござ」

「どござ」

ずー

霊夢さんが説明してくれるとのことなので、とりあえず向かい合って座りながらお茶をもらった。

「一応自己紹介しておくわね?私は霊夢、ここの巫女よ。さっき会ったのが八雲「紫さんですね?」…そう、知ってるのね?じゃあ何でここに来たのか話してくれる?」

とりあえず、ここまでのことを話してみただけど…何故頭を抱えますか?

「…つまり、気が付いたら此処についたと？」

「はい。」

いやだからため息つかないで霊夢さん。

「結論から言うわ。あなたは帰れない。」

…何ですと？

「さっきあなたを蹴り飛ばしたのは結界から出そうとしたからなのよ。」

「…なにも蹴り飛ばさなくて「文句なら紫に言ってちょうだい」…はい」

睨まなくてもええやん…

「で、何故帰れないかというと…」

…そっだよ、何で俺帰れないんだ？

俺は身をのり出した

「あなた、こっちの人間になってるわ」

…はい？なんですと？

「えっと…それはどういう…」

「言葉通りの意味よ。簡単に言うなら向こう側に忘れられたってことね。」

…あれ？ナンデダロウ？目から汗が泊まらないや

そりゃ確かに向こうには家族も親戚もないし、親しい友達もいなかったけど！だからって世界そのものにまで忘れられるなんて…

「それともうひとつ、あなたが能力持ちだから。これは先刻紫と一緒に調べたから間違いないわ。」

「…能力？俺が？」

「…喜んでいいのかな？」

「あなたの能力は『面を使う程度の能力』よ。」

「…『面を使う』？」

「なんだそりゃ？」

「簡単に説明すると、お面をかぶるとその面の者に変身して、その能力が使えるわ。」

「例えるなら鬼の面をかぶれば鬼に。天狗の面をかぶれば天狗に変身するの。」

「勿論、鬼や天狗の能力もある程度使えるわ。」

「…なんとというチート…ほぼ無敵じゃないか…」

「ただし、制約もあるわ」

「例えば時間制限、これは力の強い者の面なら短く、弱い者の面ならば長くという具合ね。範囲はだいたい3〜15分くらいね。」

「…それは…長いのか短いのか微妙だな。」

「あとは自分で造った仮面にしか反応しないといった処ね。」

「…それは問題無いな、うん。俺の得意分野だし。」

「ま、今日はこれくらいしておくわ。」

「はい、ご説明ありがとうございました。」

いつの間にかもう夕方だよ…時が経つのは早いねえ…

「しょうがないから今日は泊まっていきなさい」

「…いいんですか？」

「今日だけだけどね。明日は絶対泊めないわよ？」

「…何故？」

「慈善事業じゃないのよ。泊まりたければおさい銭入れなさい。」

「…了解です」

さて、なんだかんだあった今日は霊夢さんの御好意で神社に泊めてもらえたけど明日は宿場探さなきゃだめだな。

とりあえず人里にいつてみるか。職も探さなきゃいけないし…前途多難だな。

ま、明日頑張ろう。

第1話（後書き）

前作とほぼ同じ内容でした。

…次話投稿できなかつたので書き直しました。
前作を登録して下さった方、すみませんでした。

第2話(前書き)

続きです。

これでプロローグは終わりです。

第2話

やあ。みんなおはよう！穂波です。

早速だけど問題発生！

「と…れないっ！」

いつの間にか俺の頭が真っ白な無地で袋状のマスクに覆われてました

なぜ？

東方「無貌の男が幻想入り」第2話【主人公は伊達じゃない？】

「それ、取らない方がいいわよ？」

霊夢さんに聞いてみた第一声で取り外し不可のお言葉を頂きました。

「何故…ですか？」

「そこは私が説明するわ〜」

「紫さん…いきなり出てこないでください。それとなぜわざわざ霊夢さんの腋から出てくるんですか」

「この娘の反応が面白いから」

…うわーい霊夢さんの顔真っ赤だがや〜

「で、ソレなんだけど」

いきなり本題ですか。霊夢さんに謝らないんですね…

「ソレは私と永琳で作った『治癒袋』でね、あなた霊夢に蹴られたときに頭がぶちっと…」

「…潰れたんですか？」

「ええ、ものの見事に」

霊夢さん…あなたとんだけ強いんですか…

「で、急いで永琳を呼んでそれを付けたという訳なのよ。でも…」

「『でも…』？なんなんですか？」

「それ…『エーテル体』って知ってる？『確認』はされてはいるけど『存在』しない”はず”の物質なのよ。

つまり、本来は『虚』であり『現』にはなりえない。

…本来ならね」

えっと…

「すごく…物質です。」

ザラザラともプニプニともとれるほどに…存在してますよ？

「…まあ、あまり深く考えないようにしなさいな。

ここは幻想郷。常識に捕われていてはダメよ？」

それだけ言つと紫さんはスキマで帰っていった。

「……………」
「……………」
説明ってそれだけ？

「…とりあえず能力の確認、してみれば？」
「あ…はい。」

霊夢さんに促されるままに自分の手持ちの面を着けてみた。

「まずは…『鬼』！」

鬼の面をかぶると面は消え、俺の額と側頭部から計三本角がはえてきて、体も赤褐色に近い色になった。

「おお…！」
なんか体の底から力が湧きすぎてうずうずしてきた。

「ここで暴れないですよ？」
霊夢さん、わかりました。わかりましたからそのオソロシイスペカをお収めください。
「か、『解除』！」

そう俺がいうと俺は元にもどり、顔から鬼の面が落ちてきた。

「もっとためになるような面はないの？」
「えっと…じゃあこれで、『福の神』！」

俺は神主っぽい服に小槌、袋を持った福の神に似た姿になった。

「…で？」

「はい？」

霊夢さん、目が怖いっす！

「何ができるの？」

「えっと…」

とりあえず色々確認してみた。

「とりゃ」

小槌を振ってみた

ぶん…チャリン

十円玉がとびだした！

「えっと…(ごそごそ)」

袋の中を確かめてみた。

人参一本・大根半分・お米三を見つけた！

「以上…のようです。」

「……………」

あれ？霊夢さん、すごく怖いよ！？その笑顔すごく怖いよ！？

「期待させといて…そんだけかあああああああ！！」

霊夢のこうげき！

霊夢の夢想封印【円】！

穂波はふきとんだ！

霊夢はたたかいに勝利した！

経験値を43手に入れた！

十円を手に入れた！

人参を手に入れた！

大根半分を手に入れた！

お米を三手に入れた！

クエスト『晩御飯を手に入れる！』をクリアした！

「……………俺…よく生きてるなあ…………」
はい。絶賛飛行中の穂波です。衝撃で『福の神』の面は壊れました
が生きてます。

「『天狗』！」

急いで天狗の面を着けた。鼻は長くなり、服装は山伏に高下駄、葉
団扇。背中には黒い翼が生え、空中で体を急停止させた。と、

「あらあら、災難だったわね？」

「…まあ俺の自業自得ですから。それよりも紫さんは何故ここに？」

そこにはスキマに艶かに腰掛けた紫さんがいた。

「泊まる家が無いのなら私の家にどうかしらと思って、ね？」

「…一晩だけでいいので、おねがいします。」

「りよかーい じゃあマヨヒガにお一人様ご案内」

くぱあ

「へ？」

いきなり目の前に出現したスキマは俺を強烈に吸い込みはじめた。

「う、うわあああああああああああ!!!」

再び俺は意識を失った。

穂波がふきとばされる少し前。人里にて。

「これでよかったのか？」

「ええ。どちらにしろ彼はあちらには帰せない。ならあっちの記憶は消したほうが彼のため。それに…」

「例の件…か？難儀なものだな。」

「そうでもないわ。むしろ私も楽しんでやってるわよ」

「…」

「そんな怖い顔しないの。彼の安全はちゃんと保障するから。」

「頼んだぞ。それと…」

「ええ、彼の拠点はこちら。人里にさせるわ。それじゃ、またね？」

人里の守護者” 上白沢慧音「

「ではな。」 幻想の大妖” 八雲紫。」

第2話（後書き）

えっと…

次話は主人公の手持ちの面の紹介をしようかとおもいます。

いろいろ沸いてますがよろしくおねがいします。

設定（前書き）

遅くなつてごめんなさい。

次話はなるべく早く投稿するつもりです。

設定

主人公

穂波

19歳のほぼ男性

（身体は男性だが、性格が男でも女でもない。また、能力で男にも女にもなれるため、性別のこだわりや羞恥心などがほぼない。）
基本的に面倒臭がり。

でも頼まれれば嫌々ながらもしっかり手伝うため、周りからかなりのお人よしだと認識されている。

元の世界に忘れられた（紫とけーねによって忘れさせられた）為、幻想入りした。

「ある一族の血を受け継いでいるため、無理矢理にでもこちらに連れて来ざるを得なかった（紫談）」とのことらしい。…胡散臭い…

能力

『面を使う程度の能力』

お面を被ることにより、そのお面のモチーフに準じた力を得ることが出来る。

また、面の裏に文字をはめ込む事により、細かい設定も可能。

簡単に説明するならば、『GS美神』の横島の文珠【模】や、『ネギマ』のアルビレオ・イマのアーティファクト【イノチノシヘン】の劣化能力のようなもの。

現保有『面』

能面『系』

男系を被れば男に、女系を被れば女になることができる。また、翁系や童系と組み合わせることで年齢も変更可能。

消費する力がほぼ0に近いので、半永久的に使用することができる。また、現時点においてこの面のみこの上にさらに面を被る事が可能。現設定【男】【普通】【日本系】

なお、【女】【翁】【童】【欧】【美】【不細工】【厨二】等がある。

鬼面『鬼』

鬼の怪力を得ることができる。

現時点での容姿は三本角に赤褐色に近い肌の色。あと、牙がホンの少し伸びる。

現設定【赤鬼】【角】【基礎】

なお、【酒乱】【四天王】【容姿『幼』】【体育服】等もある。

天狗面『天狗』

天狗の神通力や飛行能力を得る。

現時点での容姿は山伏の服装に高下駄、葉団扇、黒い翼、長い鼻となっている。

現設定【天狗】【基礎】【飛行】となっている。

他には【白狼】【烏】【パパラッチ】【鞍馬】等がある。

天面『神』

神の能力を得ることができが、かなり劣化する。

容姿は様々。現在大破中

現設定【幸福】【お金】【平和】

他には【豊饒】【薄幸】【戦神】【神奈キヤノン】【現人神】【ス
イツ（笑）】【蛙】【祟り神】等がある。

自然面『妖』

妖怪・幽霊・妖精・精霊といったモノの力を使うことができる。

現設定・不明

他には【氷精】【火精】【地精】【風精】【騒霊】【蟲】【妖狐】

【猫又】【牛鬼】等がある。

なお八雲紫と八雲藍は【大妖】と【千（仙）狐】であるため、この
面では再現できない。

創作面『硬貨機人』

メダロットのティンペットになれる。

メダル【硬貨】によってパーツが換わるが、意思により部分的に変
更可能。

現設定【兜】【サイカチス】

他には【カンタロス】【鋏型】【ドークス】【ヘッドシザーズ】
【ゾーリン】【ろくしょう】【めたびー】【ビーストマスター】など
がある。

創作面『超機人』

スーパーやリアルなロボットになれる。大きさは人間大（15分）
から実物大（5分）まで変化可能。

現設定【ゲシユペンストMK・タイプS】【M950マシンガン】

【M13ショットガン】【鋼の魂】【ハイパージャマー】

他には【アルブレード】【旧ザク】【ラーズアングリフ】【ブラッ

クサレナ】【ヴァイサーガ】などがある。
え？ロボの種類？（作者の）趣味だよ？

異能面『力』

能面『系』との組み合わせでのみ使用可能。

超能力、霊能力、魔法（魔術）、スキル（ニュータイプ・直感（偽）等）が使用できるようになる。

例）：

能面『系』

【男】【GS】【三枚目】【煩惱】

+

異能面『力』

【思念盾】【栄光の手】【文珠】

|| GS美神 横島忠夫

他にもあるけどそちらはおいおい…

設定（後書き）

他にも面のアイデアはあるんだけどね…

色々ヤバイのよ。

混沌面『ア シマ』とか幽霊面『虚無』とか仮面『騎手』とかe t

c…

わかるひといるかな？

あ！面のアイデア募集してます！

また、面の貸出・譲渡もしております。

ご利用の方は『ステキなキューティー スキマ便』（無理あるぞば
ビチューン
b）

もしくは『ステキなサーセンwww箱』まで。

それが無理な場合は特例処置として感想までおねがいします。

（【訳】出来れば感想の一つでも書いて頂けると作者の励みになり、
執筆速度が当社比2倍になります。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4702k/>

東方「無貌の男が幻想入り」

2010年10月12日02時36分発行